

平成9年度厚生省心身障害研究  
「子どもの健康と栄養に関する研究」

子どもへの食教育のニーズに関する研究  
－働きかける側のニーズについて－  
(分担研究：乳幼児の食生活習慣形成と食教育に関する研究)

研究協力者 女子栄養大学 武見ゆかり  
女子栄養大学 高橋千恵子

【要約】

保育園、幼稚園の職員等、食教育において働きかける側の子どもを直接の対象とする食教育に関するニーズを、重要性の認識やセルフ・エフィカシー等の態度の面から、実践状況との関連で検討することを目的に、全国7地域の保育園、幼稚園計52園に勤務する職員を対象に郵送法による質問紙調査を実施し、672名から有効回答が得られた(有効回答率87.8%)。調査内容として、食教育の課題24項目、働きかけの方法19項目をとりあげ、重要性の認識、実践状況、実践へのセルフ・エフィカシーを3段階のリカート法で回答させた。事前、事後に関係者によるフォーカス・グループスを実施し、調査項目の選定と、調査結果をふまえて今後の食教育の方向性に関する質的検討を行った。

結果は、1) 保育園、幼稚園共に重要性の認識で「とても重要」と積極的な回答をした者が60%を超えた課題は、健康との関わり、食べ方・食べる内容、食事のマナー、家庭との関わり、生活・地域との関わり等の各側面で見られたが、セルフ・エフィカシーと実践状況で積極的な回答率が60%を超えた項目は、食事のマナーに関する項目と食べ方の中の「食事を楽しむこと」、家庭との関わりの中の「家族や友達との共食」だけであった。2) 子どもへの食教育に関心の高い者は、低い者に比べ、重要性の認識、セルフ・エフィカシー、実践状況の各面で積極的な回答率が有意に低かった。また、食教育への関心が高い者は、自己の食生活への態度においても積極的な者が多かった。3) 事後のフォーカス・グループスの結果、子ども主体の、参加型の食教育等、幼児の食教育を新しい方向へ展開するための具体的な情報や研修のニーズが高いことが示された。

【見出し語】 幼児 食教育、ニーズアセスメント、セルフ・エフィカシー

【目的】

生活習慣病予防との関わりで、望ましいライフスタイル、その基本要素としての望ましい食習慣の重要性が強調されている。望ましい食習慣の形成には、早期からの取り組みが

重要とされ、幼児期における食教育の必要性も一段と高まっている。乳幼児の食習慣形成には、家庭はもちろんのこと、地域における保育園・幼稚園、医療機関、保健期間等の役割も大きく、それらの連携による望ましい食

環境の整備が必要とされている<sup>1)</sup>。

従来、乳幼児への食教育は、養育者である親、特に母親への教育としてとらえられることが多かった。しかし、近年、幼児向けのテレビ番組等の増加、子どもにも1目でわかる写真入りのレストランのメニュー、子どもにアピールすることをねらった包装の菓子類やインスタント食品等の増加など、子どもをめぐる食環境は情報面、食物流通・供給面共に変化が大きい。そうした中で、子ども自身が食物選択の意志決定権を有する場面も少なくない。従って、子ども自身の食物選択力や望ましい食事観の形成に向けて、親を介しての食教育だけでなく、子どもにも直接的な働きかけを行うことの必要性は高いと考えられる。

本研究の目的は、子どもを直接の対象とした食教育において働きかける側、すなわち市町村の保育担当者、保育所、幼稚園の職員等の、食教育に関する態度と実践状況、食教育に関わる情報源等を明らかにし、全国的に行政で使用する食教育マニュアルの作成や教材開発のための基礎資料を得ることである。具体的には、1. 子どもを直接の対象とする食教育の課題と働きかけの方法について、重要性の認識、実践状況、実践へのセルフ・エフィカシー（自己効力）と、それらの関連を明らかにする、2. さらには、食教育への関心度別に、対象者自身の食生活への食態度との関連、及び食教育への課題と働きかけの方法に関する重要性の認識、実践状況、実践へのセルフ・エフィカシーとの関連を検討することである。

#### 【方法】

調査は、大きく3段階に分けて実施した。第1段階は、調査項目選定のための関係者へのフォーカス・グループス、第2段階は郵送法による質問紙調査、第3段階は質問紙調査結果を用いた関係者へのフォーカス・グループスによる結果の妥当性及び今後の課題の質

的検討である。

#### 1. 調査項目選定のためのフォーカス・グループス

乳幼児の食生活、食教育に関する文献による検討をふまえ、質問紙調査の対象地域の中の1つである埼玉県A市において、フォーカス・グループスを実施した。対象は、質問紙調査の対象職種を含むよう配慮し、保育園園長1名、保母3名、栄養士1名、調理師1名、計6名である。インタビューの主な内容は、

1) 子どもと接する中で感じる食生活に関する心配、特に、健康との関わり、並びに生活との関わりで心配されること、2) 現在実践している食教育の内容、3) 今後実践したい食教育の内容、4) 3) の実現のために必要とする情報、である。著者の1名がモデレーターを、1名が筆記による記録を務めた。インタビューは録音し、後の発言内容の整理に用いた。

#### 2. 質問紙調査

##### 1) 対象者と調査方法

岡山県F市、埼玉県A市とD市、東京都C区、神奈川県B市とE市、宮城県G町、以上7地域の保育園39園及び市町村の保育担当者と、幼稚園15園の職員計765名に郵送法による質問紙調査を依頼した。その結果、保育園37園569名、幼稚園15園153名、計722名から回答が得られた。本研究の目的に照らして、基本的かつ重要な質問項目で無回答があった調査票を除き、表1に示すように、保育園関係者525名、幼稚園関係者147名、計672名を有効回答として解析に用いた（有効回答率87.8%）。表2に対象者の職種、年代、勤続年数を示した。職種では、保育園では保母が85.7%を、幼稚園では教諭が70.1%を占めていた、栄養士は全体で21名（3.1%）であった。年代は保育園では20代37.9%、30代21.3%、40代25.0%、50代以上9.0%であり、幼稚園では20代が57.1%と半数以

上を占めていた。

## 2) 調査内容 (表3)

本分担研究課題に関わる研究協力者との分担班会議で、本研究でねらう食教育の方向性を確認し、それとフォーカス・グループスの結果をふまえ、表3に示す枠組みを作成した。

調査内容は、大きく、食教育に関する態度と行動、対象者自身の食生活に関する態度(以下、食態度)、及び属性である。

食教育に関する態度は、全般的な食教育への関心、食教育の課題と働きかけの方法についての重要性の認識と今後の実践へ向けてのセルフ・エフィカシーを取りあげた。食教育への行動は、態度と同様に、課題と働きかけの方法についての実践状況を質問した。食教育の課題として、健康との関わり3項目、食べ方6項目、食べる内容4項目、食事のマナー4項目、家庭との関わり3項目、生活の諸側面・地域との関わり4項目、計24項目を取りあげた。働きかけの方法として、食事づくりへの参加5項目、食事の場を利用した働きかけ6項目、食教育の企画への子どもの参加2項目、生活の他の側面との連携3項目、家庭や地域との連携3項目、計19項目を取りあげた。最初に、対象者が最も注目する子どもの年齢を回答させ、その年齢の子どもを食教育の直接の対象としたときに、という前提で以上の質問に回答をさせた。

対象者自身の食態度は、先行研究をふまえ、食事内容への配慮に関する態度3項目、食事の簡便化に関する態度2項目、食を楽しむ態度2項目、食を通したコミュニケーションや情報交換に関する態度3項目、計10項目を採りあげた。その他、食教育に関する情報源等についても質問した。

## 3) 解析方法

食教育の課題、並びに働きかけの方法の各項目について、重要性の認識、実践状況、実践へのセルフ・エフィカシーを3段階のリカ

ート法で回答させ、注目する子どもの年齢別に最も積極的な回答をした者の比率を比較した。さらに、全般的な食教育への関心、すなわち、「あなたは子どもを直接の対象として食教育をすることに関心があるか」という質問項目で対象者を3群に分け、その群別(食教育への関心度別)に、対象者自身の食態度と、上記の重要性の認識、実践状況、実践へのセルフ・エフィカシーについて検討を行った。

対象者自身の食態度は、4段階のリカート表で回答させ、最も積極的な回答に3点、以下2, 1, 0と配点し、個人別に食態度得点を算出した(最高30点)。

群間差は $X^2$ 検定を、平均値の差の検定にはt検定を用い、5%有意水準で有意性を検定した。

## 3. 質問紙調査の結果を用いたフォーカス・グループス

各対象地域でリーダー的な立場にある関係者を集め、質問紙調査の結果を用いてフォーカス・グループスを実施し、結果の妥当性と、今後の方向性について検討を行った。宮城県G町を除く各地域から1~2名の参加者を得、保育園長1名、幼稚園副園長1名、幼稚園教育指導主事1名、保母1名、栄養士4名、保母養成施設教員1名の計10名が参加した。インタビューの主な内容は、1) 調査結果と実態との整合性、2) そこから見えてくる働きかける側のニーズ、3) 今後の方向性、特に、子ども主体、子ども参加型の食教育のあり方について、である。事前のフォーカス・グループス同様、著者の1名がモデレーターを、1名が記録を担当した。

### 【結果】

#### 1. 調査項目選定のためのフォーカス・グループスの結果

##### 1) 食生活に関する心配

日々子どもと接する中で感じる懸念、心配

として、子どもたちの食への関心の低さ、食物や味の嗜好の個人差、家庭差の問題、食物摂取量と内容、特に朝食の欠食と内容の貧困さの問題、生活リズムと食事の問題、家庭との連携の難しさなどが挙げられた。

## 2) 現在実践している食教育の内容

子どもを直接の対象に実践していることとして、発達段階に応じた給食の提供(味付け、食物の切り方や大きさ、食愚の使用など)、食文化・季節感を取り入れた給食の提供、給食時の食べ方の指導、給食時に子ども同志の会話(特に食に関して)を促す働きかけ、子どもを調理、盛り付け、配膳などの食事づくりに参加させる働きかけ、ままごとなど遊びの中での働きかけ、外遊びの充実、等が挙げられた。

家庭への働きかけは、給食献立の展示、保育ノートを利用した家庭との連携、降園時や保護者会での声かけ、などであるが、保育園の場合、親が忙しいケースが多く、直接的な働きかけは困難が多いという意見であった。

## 3) 今後実践したい食教育の内容と、その実現のために必要とする情報

大きく、家庭との連携の促進と子ども参加型の食教育の2点が挙げられた。家庭との連携促進のためには、親を納得させるためのわかりやすい教材、明確な方針が打ち出されたマニュアルが必要であり、子ども参加型の食教育を進めるためにも、企画、実施、評価の各段階について具体的なマニュアルが必要との意見だった。

## 2. 質問紙調査の結果

### 1) 食教育の課題並びに働きかけの方法についての態度と実践状況

※保育園の場合、態度のうち重要性の認識では、「とても重要」と積極的な回答をした者が最も多かった課題は、0歳～5歳の全ての年齢で「食事を楽しむこと」であり、どの年代でも85%を超えていた。また、「とても重

要」という積極的な回答者率が60%を超えた課題は、にみられた。しかし、実践状況と実践へのセルフ・エフィカシーで、「積極的にやっている」、「かなりできる」といった積極的な回答者率が60%を超えた項目は、食事のマナーに関する全項目、すなわち「食事時のあいさつ」、「手洗い」、「食べる姿勢」、「食具の使いかた」と、食べ方の中の「食事を楽しむこと」、家庭との関わりの中の「家族や友達との共食」だけであった。こうした傾向は保育園、幼稚園共に、全年齢で共通していた(表4-1, 4-2)。

働きかけの方法については、重要性の認識で積極的な回答者率が最も高かった働きかけの方法は、「食事の場の楽しい雰囲気づくり」であり、保育園、幼稚園共、全ての年齢で80%を超えていた。この項目は、実践状況とセルフ・エフィカシーでもほとんどの年齢で積極的な回答者率が80%を超えていた。その他、「保育者が子どもと共食する」、「保育者と子どもが同じものを食べる」、「外遊び等活動量との調整」、「家庭との連携を図る」も積極的な回答者率が高かった。以上のように、働きかけの方法に関しては、課題に関する結果とは異なり、重要性の認識の高い項目は、実践状況とセルフ・エフィカシーも積極的な回答者率が高いという傾向がみられた。

逆に、食事づくりへの参加と食教育の企画への参加に関する項目は、重要性の認識、実践状況、セルフ・エフィカシー、何れについても積極的な回答者率は低く、こうした傾向は保育園、幼稚園共に共通であった(表5-1, 5-2)。

### 2) 食教育の課題と働きかけの方法についての優先度

食教育の課題 24 項目と働きかけの方法 19 項目について、改めて、最も優先度が高いと考えるもの5項目まで、優先度が低いと考えるもの5項目までを選択させた結果が表6

～9である。

最も優先度の高い課題は、保育園、幼稚園共に全年齢で「食事を楽しむこと」であり、重要性の認識、実践状況、セルフ・エフィカシーと別立てに質問した結果と一致していた。しかし、前述したように、重要性の認識、実践状況、セルフ・エフィカシーのいずれの面でも積極的な回答者率が高かった食事のマナーに関する項目では、優先度が高いとした者は少なく、幼稚園で「手荒い」が50%前後だった他は、20%台に留まっていた(表6)。

働きかけの方法では、優先度が高いとした者が多かった項目は、先の結果とほぼ一致していた(表7)。

逆に、優先度が低いと回答した者が多かったのは、課題では「食を通じた地域の他世代との交流」, 「食物生産や栽培について」であった(表8)。働きかけの方法では、食事づくりや食教育への子どもの参加に関する項目で、優先度は低いという回答者が多かった(表9)。

### 3) 食教育への関心

食教育への関心が「多いにある」者は、保育園職員の53.9%, 幼稚園職員の28.1%で、保育園の方に多かった。食教育への関心は、20代、30代といった若い年代ほど低く、有意な年代差がみられた(表10)。

また、職業別では、食教育への関心が「多いにある」者は、栄養士76.2%, 保母51.0%, 調理員48.3%, 幼稚園教諭28.1%と、職業による有意差が見られた(表11)。

### 4) 食教育への関心度別 自己の食態度

対象者自身の食態度10項目中8項目で、食教育への関心度による有意差が見られ、食教育への関心の高い者ほど自己の食態度でも積極的な者が多かった(表12)。

10項目から算出した食滞度得点でも、食教育への関心が「多いにある」者の平均は21.6点と、「少しある」19.4点、「あまりない又

はない」18.2点と比べ、有意に高かった(表13)。

### 5) 食教育への関心度別 食教育の課題並びに働きかけの方法についての態度と実践状況

保育園、幼稚園別、食教育への関心度別に食教育の課題並びに働きかけの方法についての重要性の認識、実践状況、実践へのセルフ・エフィカシーに差がみられるかを検討した。

保育園職員では、全体でも、年代別の検討でも、重要性の認識、実践状況、セルフ・エフィカシーの全てで、食教育への関心が高い者は、態度と実践状況別の結果でも積極的であることが示された(表14-1, 15-1, 16-1, 17-1, 18-1, 19-1)。

幼稚園職員ではいくつかの項目で、そうした差がみられたものの、全体としては食教育への関心度別に明確な傾向はみられなかった(表14-2, 15-2, 16-2, 17-2, 18-2, 19-2)。

### 3. 質問紙調査の結果を用いたフォーカス・グループスの結果

フォーカス・グループスを実施し、以下の結果が得られた。

1) 調査結果と実態の整合性に関する意見  
現状では、「食教育」という用語の定義や解釈が個人によって異なり、そのことの回答への影響が考えられる。

食事時のマナーや保母が子どもと共食するといった、具体的で、行動として目に見えるものへの働きかけは容易で、実践しやすい。しかし、栄養学の基礎知識の裏付けなしには取り扱いにくい課題や、働きかけの効果が見えにくい方法は実践しにくいという実態を反映した結果ととらえられる。また、保育雑誌等で頻度高くとりあげられる栄養指導の項目をそのまま反映した結果ともとらえられる。

### 2) 調査結果から見える働きかける側の問題点とニーズ

働きかける側の「食」のとらえ方・認識の

偏りや狭さをどう変えていくか。保母や幼稚園教諭の「食」への関心の低さをどう変えるか、特に保育園の場合、勤務態勢上ゆとりがない中で、いかに食教育に取り組むか、等が問題点として挙げられ、こうしたことへの具体的な取り組みの方法論と、その方法論の必要性や意義が理論的、実証的に説明されたマニュアルが必要とされた。

### 3) 今後の方向性についての意見

子どもへの直接的な働きかけは今後ますます重要になる。子どもから親へという情報発信の可能性も大きい。まず子どもを変える、子どもが変化すれば、親はそのことに関心を持ち、親自身、家庭全体の行動も変わる可能性がある。

子どもの自主性、自立を視점에据えた食教育のあり方が求められている。遊びや生活指導の中では、当然のことが何故食の場面ではできないのか。子ども主体、子ども参加型の食教育の必要性と意義を示したマニュアルが必要である。

一方で、親を対象にした食教育も必要である。子ども主体の食教育を効果的に進めるためにも親への働きかけとの連動が重要である。

また、働きかける側の保母、教諭、栄養士への教育のあり方も重要な問題である。これらの専門家養成課程で何をし、卒後教育で何をするか、根本的な検討が必要である。

#### 【考察】

##### 1. 食教育に関する態度と行動

食教育の課題と働きかけの方法で重要性を高く認識した者が多かった項目は、一般に乳幼児の食生活上の問題として挙げられているもの<sup>2-3)</sup>、或いは乳幼児対象の栄養指導の中でしばしばとりあげられている事項を反映した結果と考えられた。

今日、乳幼児への食教育をすすめる上で、成長段階に応じた子どものQOLの向上を図るための育児支援の中での食の位置づけが重

要とされ<sup>4)</sup>、また、栄養・食生活だけに目を向けるのではなく、遊び、運動など日常生活全体の変化の中で、生活全体の一部としてとらえ、環境づくりまでを含めたヘルスプロモーションの視点で栄養・食生活の教育をすすめることが大切とされている<sup>1, 5)</sup>。しかし、本調査の結果では、重要との認識は、健康との関わり、食べ方・食べる内容、食事のマナー、家庭との関わり、生活・地域との関わり等の各側面の課題でみられたものの、実践状況では、限られた課題のみになってしまっていた。さらに、今後の実践へのセルフ・エフィカシーについても、現在実践されているもの以外では「できる」という回答者率が低い結果であった。従って、保育園、幼稚園において、生活の多側面との関わりで食教育を進めて行くためには、何らかの具体的な方策が必要と考えられた。例えば、個々の園や地域での特徴ある取り組みの事例<sup>6-8)</sup>を行政として全国的にとりまとめたり、食具と食べる行動の発達に関する研究<sup>9, 10)</sup>のような新しい知見を盛り込んだマニュアルづくり等が考えられよう。

##### 2. 子供を直接の対象とした「参加型」の教育について

今日、健康教育の分野では、従来の専門家主導の指導型の教育から、対象者主体の学習援助型、参加型へというパラダイム・シフトが進んでいる<sup>11)</sup>。栄養教育においても、主に成人を対象にこうした取り組みが始まっている<sup>12, 13)</sup>が、子どもを対象とした実践事例もみられる<sup>6-8, 14)</sup>。その中では、特に、子どもの積極的・自立的な食生活の力の形成のため、子どもの豊かな食事像(食事観)の形成のために「子ども参加型」が重要とされている。

しかし、本調査の質問紙調査の結果では、例えば、働きかけの方法の、食事づくりへの参加や食教育の企画への子どもの参加といっ

た、子ども参加型、子ども主体の食教育を意識した項目では、重要性の認識も、実践状況も、セルフ・エフィカシーでも積極的な回答が少なかった。事後のフォーカス・グループでは、子どもを取り巻く家庭環境、社会環境を考えると、子ども参加型の食教育は今後益々重要になるであろうとの意見であったが、一方で、「子どもをクッキングに参加させたり、盛り付けや配膳に参加させているところはある。しかし、そのことがなぜ重要なのか、その理論的な裏付けまでを理解して、実践しているところは少ないのではないか」との意見もみられた。

以上の結果から、子ども参加型の食教育を進めるための、理論的裏付けを伴ったマニュアルが必要であり、そうした理論的裏付けを検証するための介入研究等も必要であると考えられた。

### 3. 保母、幼稚園教諭等、働きかける側の 専門家養成のあり方について

食教育への関心が高い者は、自己の食態度も積極的な者が多いという結果は、逆に言えば、自己の食態度の積極性が、乳幼児への保育にも影響すると考えられる。保育者の保育現場での食事場面の行動は、本人の食や栄養に関する知識と態度によって異なるとの報告もみられる<sup>15)</sup>。食態度は、個人の生活体験によって形成される部分も多いが、一方で、専門家養成課程の中で、こうした態度の形成をどう位置づけるかは今後に向けて大きな課題の1つといえよう。特に、若い世代で食教育への関心の低い者が多かったことから、これまでも増して、専門家養成課程で、或いは、卒後教育の中での取り組みが必要と考えられる。

以上のような、いくつかの取り組みを進めていく前提として、「食教育」をどうとらえるかについて、保母、幼稚園教諭、栄養士といった乳幼児にかかわる多職種が共通の認識

をもつことが重要と考えられた。

#### 【文献】

- 1) 健康教育委員会（委員長：船川幡夫）：子どもの栄養・食生活と健康教育、小児保健研究、55、124-126（1996）
- 2) 大国真彦：なぜ食事指導が必要か、大国真彦偏、子どもの食生活処方箋、pp. 1-9、南江堂（1991）
- 3) 平山宗宏：平成8年度厚生科学研究補助金（社会保障・人口問題政策調査研究事業）研究、少子社会における総合的な子どもの健康づくり施策の確立に関する研究報告書、pp. 1-4、（1997）
- 4) 高野陽：子どもの健康づくりと栄養士、栄養日本、40、5-7（1997）
- 5) Position of the American Dietetic Association: Nutrition standards for child care programs, J. Am. Diet. Assoc. 94, 323-328 (1994)
- 6) 鈴木洋子：地方の時代の小児保健—保健婦の立場から—、小児保健研究、56、723-729（1997）
- 7) 宮野由紀：食べる力にあった食事の提供と援助をめざして—栄養士の視点からのアプローチと乳児保育所との連携・実践を中心に—、全国保母会研究紀要、7、130-142（1997）
- 8) 佐野真理子：心身共に豊かに育つ食生活をめざして—保育所での食のあり方を考える—全国保母会研究紀要、7、144-158（1997）
- 9) 伊与田治子、足立己幸、高橋悦二郎：幼児における食具を使って食べる行動の発達と食物摂取の関係、小児保健研究、54、673-685（1995）
- 10) 伊与田治子、足立己幸、高橋悦二郎：保育所給食の料理形態との関連からみた幼児における食具の持ち方および使い方の発達的变化、小児保健研究、55、

- 1 1) 吉田亨：健康教育・健康学習とヘルスプロモーション、日本健康教育学会誌、3, 1, 7-9 (1996)
- 1 2) 武見ゆかり他：学習援助型健康教室による中高年女性の食行動・食態度の変化、日本健康教育学会誌、4 特別号, 62-63 (1996)
- 1 3) 武見ゆかり他：住民参加型ニーズ調査を通じての地区組織育成事業参加者の態度の変化、日本健康教育学会誌、5 特別号, 64-65 (1997)
- 1 4) 足立己幸、針谷順子：豊かな「食事像」を育てる食教育の実践研究、その1子ども達参加型の視点、小児保健研究、54, 551-553 (1995)
- 1 5) Nahikian-Nelms, M.: Influential factors of caregiver behavior at mealtime: A study of 24 child-care programs, J. Am. Diet.Assoc. 97, 505-509 (1997)



表1 調査実施状況

地 区	対象園数			対象者数		
	保育園	幼稚園	計	保育園	幼稚園	計
埼玉県A市	6	5	11	80	28	108
関東 神奈川県B市	3	5	8	66	91	157
東 東京都C区	5		5	85		85
埼玉県D市	5		5	61		61
神奈川県E市	10		10	132		132
中国 岡山県F市	5	5	10	66	28	94
東北 宮城県G町	3		3	35		35
計	37	15	52	525	147	672

表2 調査対象者

	保育園 n=525		幼稚園 n=147	
	n	人数	人数	%
保母		450	25	17.0
看護婦		5	0	0.0
職 栄養士		19	2	1.4
調理員		30	0	0.0
種 教諭		0	103	70.1
事務		3	3	2.0
その他		12	6	4.1
無回答		6	8	5.4
20代		199	84	57.1
年 30代		112	16	10.9
40代		131	27	18.4
代 50代以上		47	13	8.8
無回答		33	7	4.8
3年未満		67	33	22.4
勤 3～5年未満		85	31	21.1
続 5～10年未満		110	31	21.1
年 10～20年未満		128	18	12.2
数 20年以上		118	29	19.7
無回答		17	5	3.4

表3 ニーズ調査枠組み

食教育の課題と働きかけの方法		食教育に関する		対象者自身の		
		態度	行動	態度	行動	属性等
食教育全般		食教育への関心 (問1) 食教育に関する悩み (問11) 食教育が必要と考える子どもの特徴 (問15) 「食教育」のとらえ方 (問16) 食教育に活用したい情報源 (問10)	食教育を行う上で役立つ情報源 (問8)	食態度 (問13-3) (食事内容への配慮に関する態度、食事の簡便化に関する態度、食を楽しむ態度、食を通じたコミュニケーションや情報交換に関する態度)	勤続年数 (問12)	性別 (問12-1) 年齢 (問12-2) 職階 (問12-3) 役職 (問12-5)
食教育の課題	健康との関わり からだの発育と食事との関連(a) 疾病と食事との関連(b) 虫歯と食事との関連(c)	重要性の認識 (問2) 実践へのセルフ・エフィカシー (問6) 課題別優先度 (問13)	実践状況 (問4)			
	食育の 食べ方・ 食べる内容 噛むことと食事との関連(d) 偏食、好き嫌い(e) むら食い、遊び食べ、食べる速度(f) 授乳(g) 離乳食(h) 必要な栄養素 (栄養所要量) (i) バランスの良い食事のとり方(j) 間食のとり方(k) 朝食を食べること(l) 食事を楽しむこと(r)					
	食事のマナー 食事時のあいさつ(m) 食事前の手洗い(n) 食べる姿勢(o) 食具 (箸、スプーン等) の使い方(p)					
	家庭との関わり 家族や友達との共食(s) 家庭での食事づくりの手伝い(t) 家族や友人の食に関する情報交換(u)					
	生活の側面・ 地域との関わり 食を通して季節感や伝統行事を知る(q) 食物生産や栽培について(v) 生活リズムとの関連(w) 食を通じた地域の他世代との交流(x)					
	食教育の働きかけの方法					
食育の働きかけの方法	食事の場を利用した働きかけ 保育者が子どもと共食(f) 保育者が子どもと同じものを食べる(g) 食事の場の楽しい雰囲気づくり(h) 食事の場で子ども同士の会話の尊重(i) 食事の場を食教育に利用(j) 給食を通しての食教育(k)					
食育の働きかけの方法	食教育企画への参加 自分の食生活の問題点を考えさせる(l) 食教育の企画に子どもも参加させる(m)					
食育の働きかけの方法	生活の側面との連携 外遊び等、活動量との調整(o) 遊びと食教育の連携(n) 知育と食教育との連携(p)					
食育の働きかけの方法	家庭や地域との連携 家庭との連携を図る(q) 父親との関わりを増やす働きかけ (r) 食を通じた地域の他世代との交流(s)					

表 4-1 食教育の課題に関する態度と行動における積極的な回答者率（保育園）

(%)

課題	0 歳 (n=63)			1 歳 (n=96)			2 歳 (n=92)		
	重要性の認識 「とても重要」	実践状況 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践状況 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践状況 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」
健康との関わり a) からだの発育と食事との関連	66.7	14.3	17.5	68.4	12.8	26.0	65.2	6.7	19.8
b) 疾病と食事との関連	82.3	24.2	27	64.2	14.9	30.5	66.3	13.6	14.1
c) 虫歯と食事との関連	50.8	21.0	30.2	62.0	18.9	42.7	57.6	25.0	35.9
d) 噛むことと食事との関連	87.3	66.7	60.3	91.7	59.4	64.6	84.8	56.0	62.0
e) 偏食、好き嫌い	53.2	44.4	47.6	64.6	54.2	51.0	57.1	57.6	46.7
食べ方・食べる内容 f) むら食い、遊び食べ、食べる速度	59.7	50.8	38.1	49.0	49.0	54.2	45.7	47.8	45.7
g) 授乳	76.2	45.2	37.7	66.3	39.1	41.9	55.7	18.9	22.7
h) 離乳食	87.3	65.1	49.2	84.4	43.5	51.6	72.2	19.1	25.0
i) 必要な栄養素（栄養所要量）	60.3	23.0	29	59.4	21.1	28.4	57.1	18.0	24.2
j) バランスの良い食事のとり方	67.7	38.1	36.5	68.8	36.5	39.6	66.3	30.4	31.5
k) 間食のとり方	47.6	24.2	29	57.3	29.2	46.3	45.7	20.2	27.2
l) 朝食を食べること	79.4	61.9	47.5	91.7	52.1	57.9	86.8	46.2	40.7
m) 食事を楽しむこと	93.7	64.5	74.6	97.9	80.2	85.4	88.0	72.8	81.5
食事時のマナーに関して n) 食事時のあいさつ	60.3	69.8	79.4	65.6	86.5	91.7	54.9	84.8	82.6
o) 食事前の手洗い	74.6	85.7	82.5	79.2	91.5	92.7	81.5	91.1	87.0
p) 食べる姿勢	63.5	69.8	77.4	75.0	74.7	80.2	64.1	76.1	79.3
q) 食具（箸、スプーン等）の使い方	52.4	46.0	71.4	44.8	62.5	74.7	47.8	67.4	75.0
家庭との関わり r) 家族や友だちとの共食	92.1	73.0	58.1	89.6	62.8	71.9	83.7	64.1	63.7
s) 家庭での食事づくりの手伝い	22.6	29.0	23.3	41.5	12.0	24.2	27.2	14.6	8.8
t) 家族や友人との食に関する情報交換	38.1	21.7	30.6	42.6	18.3	39.6	42.4	40.7	38.9
生活の諸側面・地域との関わり u) 食を通して季節感や伝統行事を知る	36.5	30.6	41	46.3	30.5	47.9	42.4	30.4	42.4
v) 食物生産や栽培について	15.9	6.6	8.3	27.7	4.3	19.8	24.2	4.4	13.3
w) 生活リズムとの関連	79.0	57.1	43.5	86.2	51.6	50.0	66.3	31.1	27.8
x) 食を通じた地域の他世代との交流	14.5	4.8	4.8	14.9	3.2	9.5	16.3	4.4	4.4

60%以上が積極的な回答をした項目

課題	3 歳 (n=101)			4 歳 (n=48)			5 歳 (n=75)		
	重要性の認識 「とても重要」	実践状況 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践状況 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践状況 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」
健康との関わり a) からだの発育と食事との関連	69.3	11.3	20.0	64.6	27.7	28.3	64.9	9.5	21.6
b) 疾病と食事との関連	69.3	12.4	25.0	63.8	21.3	31.1	72.6	14.1	18.7
c) 虫歯と食事との関連	49.0	21.2	34.3	54.2	39.6	48.9	70.7	18.9	46.7
d) 噛むことと食事との関連	83.2	45.5	57.4	79.2	52.1	63.8	90.7	44.0	57.3
e) 偏食、好き嫌い	63.4	56.4	53.5	68.8	62.5	55.3	65.3	44.0	52
食べ方・食べる内容 f) むら食い、遊び食べ、食べる速度	49.5	47.0	50.5	45.8	50.0	54.2	52.7	45.9	50.7
g) 授乳	53.5	12.9	18.3	52.1	25.0	23.8	59.7	19.4	24.2
h) 離乳食	69.0	15.8	26.9	75.0	20.9	28.6	70.3	22.2	26.9
i) 必要な栄養素（栄養所要量）	48.5	13.4	22.0	66.7	16.3	37	51.4	19.2	29.2
j) バランスの良い食事のとり方	74.3	33.3	36.6	79.2	44.7	40.4	61.3	32.0	38.7
k) 間食のとり方	39.6	16.2	36.6	43.8	21.7	31.9	37.8	14.9	35.6
l) 朝食を食べること	79.2	46.5	57.4	93.6	66.7	54.2	84.0	61.3	63.5
m) 食事を楽しむこと	84.2	70.0	80.0	89.6	79.2	79.2	90.7	77.3	82.7
食事時のマナーに関して n) 食事時のあいさつ	57.4	81.0	87.1	61.7	89.6	85.4	61.3	77.3	87.7
o) 食事前の手洗い	86.0	91.1	90.1	89.6	95.8	93.8	78.7	90.7	93.3
p) 食べる姿勢	66.3	79.2	80.2	72.9	91.5	79.2	72.0	73.3	81.3
q) 食具（箸、スプーン等）の使い方	45.5	61.4	73.0	62.5	72.9	75.0	56.0	60.0	74.7
家庭との関わり r) 家族や友だちとの共食	81.2	67.7	63.4	95.8	75.0	64.6	86.7	69.4	64.0
s) 家庭での食事づくりの手伝い	33.0	16.3	22.0	40.4	17.8	25.5	52.7	25.7	29.7
t) 家族や友人との食に関する情報交換	41.6	24.0	38.0	45.8	29.8	47.8	49.3	33.8	37.3
生活の諸側面・地域との関わり u) 食を通して季節感や伝統行事を知る	45.5	31.7	50.5	51.1	54.2	42.6	56.0	45.3	54.7
v) 食物生産や栽培について	17.8	3.0	7.9	35.4	21.3	26.1	39.2	24.0	32.9
w) 生活リズムとの関連	65.3	29.7	36.0	78.7	43.5	40.4	80.0	41.9	42.7
x) 食を通じた地域の他世代との交流	14.0	7.0	8.2	21.7	26.7	6.4	13.3	14.9	8.2

60%以上が積極的な回答をした項目

表5-1 食教育の働きかけの方法に関する態度と行動における積極的な回答者率

(保育園) %

働きかけの方法	0歳 (n=63)			1歳 (n=96)			2歳 (n=92)		
	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」
食卓づくりへの参加									
a) 献立内容への発言	3.2	1.6	9.7	4.2	1.1	9.5	10.9	0.0	7.6
b) 自分で摂取量を決定	9.7	8.1	9.5	13.7	8.6	22.9	7.6	6.7	15.2
c) 調理への参加	20.6	3.2	9.5	28.4	5.3	16.8	14.1	3.3	6.6
d) 配膳への参加	31.7	11.1	30.2	38.9	10.5	34.7	21.7	12.2	28.6
e) 後片付けへの参加	31.7	17.7	31.7	41.7	17.7	42.7	27.2	21.7	39.6
食事の場での働きかけ									
f) 保育者が子どもと共食する	65.1	49.2	62.9	71.6	53.8	70.5	77.2	77.2	81.3
g) 保育者と子どもが同じものを食べる	71.4	57.1	65.1	86.5	71.6	80.0	81.5	83.7	83.7
h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり	92.1	79.4	84.1	91.7	81.3	86.5	96.7	87.0	89.1
i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重	28.6	25.4	39.7	42.7	38.5	58.3	44.6	48.9	58.7
j) 食事の場を食教育に利用	36.5	15.9	28.6	31.3	18.9	34.4	34.4	19.6	33.7
k) 給食を通しての食教育	46.0	23.8	30.2	40.0	20.0	38.5	35.6	20.7	32.6
食教育企画への参加									
l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる	9.5	0.0	4.8	11.6	0.0	10.6	4.4	2.2	3.3
m) 食教育の企画に子どもを参加させる	7.9	1.6	3.2	13.7	1.1	6.4	4.3	2.2	3.3
生活の側面との連携									
n) 外遊び等活動量との調整	63.5	63.5	71.4	77.1	70.8	86.5	77.2	68.1	67.4
o) 遊びと食教育の連携	31.1	14.5	21.0	27.4	20.0	21.1	20.7	5.6	17.4
p) 知育と食教育の連携	16.1	3.2	19.4	22.9	2.1	18.1	22.2	2.2	12.0
家庭や地域との連携									
q) 家庭との連携を図る	88.9	69.8	58.1	92.6	72.9	68.8	83.7	43.3	48.9
r) 父親との関わりを増やす働きかけ	51.6	23.8	27.4	64.6	22.9	35.4	53.8	16.5	27.2
s) 食を通じた地域の他世代との交流	9.7	1.6	4.8	13.5	4.2	8.3	18.7	1.1	3.3

60%以上が積極的な回答をした項目

働きかけの方法	3歳 (n=101)			4歳 (n=48)			5歳 (n=75)		
	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシーの強さ「かなりできる」
食卓づくりへの参加									
a) 献立内容への発言	9.1	1.0	10.0	13.3	2.1	10.4	11.1	8.1	13.5
b) 自分で摂取量を決定	16.2	13.0	32.0	23.4	27.1	40.4	28.4	26.7	42.7
c) 調理への参加	18.0	4.0	9.0	18.8	4.2	10.6	44.6	21.3	34.7
d) 配膳への参加	32.7	31.3	48.0	33.3	42.6	66.7	61.3	61.3	70.3
e) 後片付けへの参加	42.6	39.6	60.0	52.1	56.3	76.6	61.3	54.7	78.7
食事の場での働きかけ									
f) 保育者が子どもと共食する	77.2	80.2	85.9	75.0	89.6	80.9	86.7	82.7	92.0
g) 保育者と子どもが同じものを食べる	75.2	83.2	86.0	79.2	87.5	79.2	88.0	78.4	85.3
h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり	89.1	79.2	83.0	93.8	85.4	89.4	92.0	76.0	92.0
i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重	49.0	52.0	60.0	45.8	62.5	68.8	44.0	46.7	64.9
j) 食事の場を食教育に利用	32.7	22.2	43.0	36.2	43.5	47.9	41.3	28.4	49.3
k) 給食を通しての食教育	44.6	27.0	44.0	44.7	44.4	48.9	48.0	36.5	50.7
食教育企画への参加									
l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる	9.0	2.0	12.0	17.0	10.6	16.7	21.6	9.6	19.2
m) 食教育の企画に子どもを参加させる	6.0	2.0	5.0	6.4	4.0	14.6	13.9	6.8	6.7
生活の側面との連携									
n) 外遊び等活動量との調整	64.0	65.3	74.5	74.5	76.6	75.0	66.7	56.8	73.3
o) 遊びと食教育の連携	22.8	7.0	17.3	22.9	14.6	30.4	28.4	11.0	21.3
p) 知育と食教育の連携	21.2	6.0	17.2	29.2	2.2	16.7	20.5	8.1	21.6
家庭や地域との連携									
q) 家庭との連携を図る	79.2	55.4	54.5	83.0	44.7	52.2	88.0	50.7	58.7
r) 父親との関わりを増やす働きかけ	56.0	22.2	30.9	45.8	15.6	28.9	46.7	13.3	20.0
s) 食を通じた地域の他世代との交流	19.0	6.0	9.2	10.4	2.2	9.3	16.0	6.7	8.0

60%以上が積極的な回答をした項目

表 4-2 食教育の課題に関する態度と行動における積極的な回答者率（幼稚園）

(%)

課題	3 歳 (n=26)			4 歳 (n=57)			5 歳 (n=53)			
	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシー の強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシー の強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシー の強さ「かなりできる」	
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連	50.0	16.0	19.2	71.4	8.8	21.1	62.3	9.4	20.8
	b) 疾病と食事との関連	69.2	11.5	26.9	58.5	12.7	19.3	53.8	7.5	20.8
	c) 虫歯と食事との関連	50.0	36.0	57.7	73.2	33.3	40.4	62.3	30.8	52.8
食べ方・ 食べる 内容	d) 噛むことと食事との関連	73.1	34.6	65.4	78.9	31.6	43.9	64.2	26.4	51.9
	e) 偏食、好き嫌い	61.5	30.8	46.2	78.6	43.9	42.1	75.5	50.9	43.4
	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度	42.3	46.2	57.7	60.7	41.1	42.1	62.3	47.2	54.7
	g) 授乳	50.0	0.0	7.7	45.6	1.8	5.8	37.7	4.1	6.1
	h) 離乳食	42.3	0.0	7.7	35.1	0.0	5.7	37.7	4.0	6.1
	i) 必要な栄養素（栄養所要量）	42.3	3.8	11.5	42.9	8.8	7.1	40.4	11.3	12.2
	j) バランスの良い食事のとり方	73.1	3.8	12.0	64.3	12.3	14.0	67.3	17.0	29.4
	k) 閉食のとり方	46.2	4.0	28.0	43.9	12.5	12.5	43.4	9.4	28.3
	l) 朝食を食べること	76.0	23.1	50.0	80.4	31.6	47.4	66.0	35.8	45.3
	m) 食事を楽しむこと	92.3	23.1	76.9	89.5	45.6	73.7	75.0	43.4	77.4
食事時の マナー	n) 食事時のあいさつ	88.5	88.5	88.0	77.2	86.0	87.7	77.4	84.6	81.1
	o) 食事前の手洗い	80.8	100.0	92.3	94.7	94.7	91.2	79.2	88.5	84.9
	p) 食べる姿勢	76.9	69.2	84.6	61.4	66.7	82.5	62.3	69.2	75.5
	q) 食具（箸、スプーン等）の使い方	38.5	34.6	61.5	54.4	50.9	59.6	60.4	64.2	62.3
家庭との 連携	r) 家族や友だちとの共食	88.5	80.8	73.1	73.7	62.5	59.6	75.5	57.7	64.2
	s) 家庭での食事づくりの手伝い	38.5	61.5	23.1	41.1	33.9	22.8	32.1	46.2	30.2
	t) 家族や友人との食に関する情報交換	34.6	11.5	50.0	32.1	16.1	32.7	35.8	11.5	43.4
生活の 諸側面 との 関わり	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る	26.9	26.9	38.5	30.4	17.9	33.3	37.7	30.8	34
	v) 食物生産や栽培について	15.4	19.2	23.1	32.1	15.8	21.1	26.4	23.1	26.4
	w) 生活リズムとの関連	44.0	26.9	23.1	59.6	27.3	28.6	47.2	19.2	34
	x) 食を通じた地域の他世代との交流	15.4	3.8	15.4	22.8	5.4	10.5	17.0	7.7	15.1

60%以上が積極的な回答をした項目

表 5-2 食教育の働きかけの方法に関する態度と行動における積極的な回答者率

(幼稚園)

%

働きかけの方法	3 歳 (n=26)			4 歳 (n=57)			5 歳 (n=53)			
	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシー の強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシー の強さ「かなりできる」	重要性の認識 「とても重要」	実践度 「積極的にやっている」	セルフ・エフィカシー の強さ「かなりできる」	
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言	7.7	3.8	11.5	3.5	0.0	1.8	5.7	3.8	5.7
	b) 自分で摂取量を決定	11.5	11.5	16	8.8	1.8	7.1	5.7	7.5	7.5
	c) 調理への参加	30.8	7.7	30.8	32.7	3.6	14.3	35.3	13.2	22.6
	d) 配膳への参加	34.6	15.4	50	45.6	25.0	35.7	43.4	30.2	41.5
	e) 後片付けへの参加	38.5	57.7	69.2	56.1	50.0	58.9	54.7	60.4	67.9
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する	84.6	92.3	92.3	82.1	89.3	82.1	83.0	90.6	88.7
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる	15.4	23.1	46.2	24.6	21.4	30.4	24.5	20.8	30.2
	h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり	88.5	73.1	92.3	82.1	71.4	83.9	86.8	81.1	79.2
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重	53.8	53.8	73.1	42.1	49.1	57.1	45.3	50.9	60.4
	j) 食事の場を食教育に利用	38.5	11.5	38.5	38.6	27.3	33.9	35.8	28.3	42.3
食教育企画 への参加	k) 給食を通しての食教育	20.0	19.2	30.8	19.6	10.7	18.2	17.3	9.6	19.2
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる	7.7	0.0	11.5	17.5	8.9	12.5	17.3	5.7	11.3
	m) 食教育の企画に子どもを参加させる	3.8	0.0	7.7	10.9	3.6	12.5	13.5	9.4	7.5
生活の他 側面との 連携	n) 外遊び等 活動量との調整	61.5	57.7	84.6	57.9	56.4	67.9	41.5	56.6	62.3
	o) 遊びと食教育の連携	23.1	3.8	32	24.1	3.6	16.1	19.2	9.4	15.7
家庭や 地域との 連携	p) 知育と食教育の連携	7.7	0.0	50	10.7	5.4	33.9	11.3	5.7	32.1
	q) 家庭との連携を図る	76.0	42.3	61.5	77.2	41.1	60.7	71.7	54.7	60.4
	r) 父親との関わりを増やす働きかけ	69.2	3.8	26.9	47.4	8.9	25	60.4	19.2	24.5
s) 食を通じた地域の他世代との交流	20.0	3.8	19.2	24.6	1.8	12.5	20.8	9.4	7.7	

60%以上が積極的な回答をした項目

表6 子どもを対象とした食教育において、重要で優先度の高い課題

(優先度の高いものから順に5肢迄を複数回答) %

課題	保育園						幼稚園			
	0歳児 n=63	1歳児 n=96	2歳児 n=92	3歳児 n=101	4歳児 n=48	5歳児 n=75	3歳児 n=26	4歳児 n=57	5歳児 n=53	
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連	18.0	13.7	26.1	27.8	23.9	17.8	19.2	28.6	20.8
	b) 疾病と食事との関連	31.1	20.0	23.9	26.8	30.4	19.2	15.4	26.8	24.5
	c) 虫歯と食事との関連	6.6	15.8	16.3	14.4	15.2	19.2	7.7	25.0	17.0
食べ方・ 食べる 内容	d) 噛むことと食事との関連	54.1	63.2	48.9	44.3	45.7	50.7	26.9	21.4	20.8
	e) 偏食、好き嫌い	29.5	40.0	42.4	53.6	39.1	45.2	42.3	50.0	54.7
	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度	27.9	13.7	16.3	19.6	21.7	17.8	19.2	26.8	37.7
	g) 授乳	21.3	9.5	2.2	12.4	4.3	4.1	-	-	-
	h) 離乳食	52.5	37.9	17.4	25.8	17.4	23.3	-	-	-
	i) 必要な栄養素(栄養所要量)	9.8	8.4	9.8	10.3	6.5	4.1	3.8	5.4	7.5
	j) バランスの良い食事のとり方	24.6	30.5	30.4	37.1	37.0	35.6	30.8	25.0	28.3
	k) 同食のとり方	0.0	3.2	7.6	4.1	2.2	4.1	0.0	1.8	0.0
	l) 朝食を食べること	39.3	37.9	46.7	45.4	43.5	52.1	26.9	39.3	34.0
	m) 食事を楽しむこと	57.4	65.3	57.6	60.8	67.4	58.9	73.1	53.6	54.7
	n) 食事時のあいさつ	9.8	15.8	16.3	20.6	13.0	16.4	46.2	37.5	37.7
食事時の マナー	o) 食事前の手洗い	13.1	21.1	32.6	26.8	26.1	20.5	65.4	57.1	49.1
	p) 食べる姿勢	16.4	23.2	21.7	23.7	15.2	26.0	46.2	21.4	37.7
	q) 食具(箸、スプーン等)の使い方	21.3	15.8	23.9	15.5	10.9	16.4	23.1	26.8	30.2
家庭との 連携	r) 家族や友だちとの共食	21.3	15.8	25.0	20.6	26.1	19.2	30.8	12.5	15.1
	s) 家庭での食事づくりの手伝い	4.9	3.2	2.2	7.2	10.9	4.1	3.8	0.0	3.8
	t) 家族や友人との食に関する情報交換	1.6	2.1	1.1	4.1	2.2	0.0	3.8	0.0	5.7
生活の 諸側面 との 関わり	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る	4.9	5.3	8.7	11.3	15.2	9.6	0.0	14.3	1.9
	v) 食物生産や栽培について	1.6	3.2	1.1	1.0	4.3	5.5	3.8	7.1	7.5
	w) 生活リズムとの関連	32.8	31.6	17.4	24.7	17.4	28.8	11.5	10.7	5.7
	x) 食を通じた地域の他世代との交流	0.0	0.0	1.1	3.1	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0

40%以上の者が優先度が高いとした項目

表7 子どもを対象とした食教育において、重要で優先度の高い働きかけの方法

(優先度の高いものから順に5肢迄を複数回答) %

働きかけの方法	保育園						幼稚園			
	0歳児 n=63	1歳児 n=96	2歳児 n=92	3歳児 n=101	4歳児 n=48	5歳児 n=75	3歳児 n=26	4歳児 n=57	5歳児 n=53	
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言	8.3	1.1	1.1	6.1	4.5	5.4	12.0	3.7	3.9
	b) 自分で摂取量を決定	15.0	17.0	11.4	27.6	27.3	36.5	12.0	5.6	2.0
	c) 調理への参加	11.7	14.9	5.7	12.2	6.8	24.3	16.0	20.4	17.6
	d) 配膳への参加	23.3	17.0	15.9	27.6	29.5	44.6	32.0	35.2	45.1
	e) 後片付けへの参加	21.7	23.4	21.6	36.7	27.3	35.1	46.0	64.8	64.7
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する	55.0	61.7	65.9	74.5	63.6	59.5	68.0	70.4	76.5
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる	38.3	46.8	52.3	54.1	38.6	37.8	16.0	9.3	15.7
	h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり	93.3	85.1	86.4	82.7	93.2	78.4	92.0	85.2	80.4
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重	11.7	23.4	23.9	13.3	20.5	13.5	24.0	27.8	25.5
食教育企画 への参加	j) 食事の場を食教育に利用	13.3	10.6	17.0	11.2	15.9	14.9	12.0	20.4	19.6
	k) 給食を通しての食教育	25.0	17.0	21.6	23.5	22.7	33.8	4.0	7.4	9.8
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる	1.7	2.1	0.0	3.1	2.3	5.4	4.0	7.4	5.9
	m) 食教育の企画に子どもを参加させる	1.7	2.1	2.3	0.0	4.5	4.1	0.0	1.9	7.8
	n) 外遊び等活動量との調整	50.0	56.4	60.2	56.1	56.8	43.2	72.0	40.7	47.1
生活の他 側面との 連携	o) 遊びと食教育の連携	25.0	24.5	19.3	9.2	11.4	10.8	20.0	13.0	13.7
	p) 知育と食教育の連携	0.0	0.0	3.4	5.1	2.3	1.4	4.0	5.6	5.9
家庭や 地域との 連携	q) 家庭との連携を図る	75.0	73.4	65.9	61.2	56.8	41.9	48.0	57.4	43.1
	r) 父親との関わりを増やす働きかけ	16.7	9.6	11.4	9.2	4.5	4.1	16.0	18.5	11.8
	s) 食を通じた地域の他世代との交流	0.0	3.2	3.4	2.0	0.0	2.7	0.0	1.9	0.0

40%以上の者が優先度が高いとした項目

表8 子どもを対象とした食教育において、優先度の低い課題

(優先度の低いものから順に5肢迄を複数回答) %

課題	保育園						幼稚園			
	0歳児 n=63	1歳児 n=96	2歳児 n=92	3歳児 n=101	4歳児 n=48	5歳児 n=75	3歳児 n=26	4歳児 n=57	5歳児 n=53	
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連	31.0	26.1	26.4	21.3	17.4	21.1	28.0	23.6	27.1
	b) 疾病と食事との関連	19.0	27.3	24.1	28.7	21.7	26.8	36.0	25.5	22.9
	c) 虫歯と食事との関連	22.4	14.8	20.7	20.2	19.6	15.5	12.0	5.5	16.7
食べ方・ 食べる 内容	d) 噛むことと食事との関連	5.2	2.3	5.7	11.7	4.3	4.2	4.0	10.9	10.4
	e) 偏食、好き嫌い	20.7	14.8	11.5	11.7	6.5	9.9	12.0	7.3	4.2
	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度	15.5	20.5	18.4	11.7	6.5	18.3	8.0	1.8	8.3
	g) 授乳	13.8	15.9	20.7	17.0	21.7	16.9	-	-	-
	h) 離乳食	8.6	12.5	13.8	12.8	19.6	12.7	-	-	-
	i) 必要な栄養素(栄養所要量)	27.6	26.1	20.7	24.5	17.4	31.0	28.0	38.2	29.2
	j) バランスの良い食事のとり方	22.4	15.9	16.1	17.0	13.0	15.5	8.0	30.9	20.8
	k) 間食のとり方	22.4	31.8	23.0	19.1	23.9	19.7	32.0	43.6	52.1
	l) 朝食を食べること	12.1	6.8	8.0	11.7	6.5	8.5	4.0	3.6	12.5
	m) 食事を楽しむこと	5.2	3.4	3.4	3.2	0.0	8.5	4.0	3.6	2.1
食事時の マナー	n) 食事時のあいさつ	6.9	4.5	3.4	8.5	4.3	7.0	4.0	1.8	0.0
	o) 食事前の手洗い	1.7	1.1	2.3	5.3	2.2	4.2	4.0	1.8	0.0
	p) 食べる姿勢	10.3	6.8	8.0	8.5	4.3	8.5	0.0	3.6	4.2
	q) 食具(箸、スプーン等)の使い方	5.2	10.2	4.6	8.5	2.2	14.1	12.0	7.3	10.4
家庭との 連携	r) 家族や友だちとの共食	17.2	12.5	11.5	14.9	15.2	8.5	8.0	3.6	6.3
	s) 家庭での食事づくりの手伝い	39.7	43.2	46.0	35.1	58.7	53.5	24.0	29.1	22.9
	t) 家族や友人との食に関する情報交換	20.7	31.8	21.8	16.0	26.1	22.5	20.0	10.9	4.2
生活の 側面 との 関わり	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る	17.2	19.3	23.0	20.2	15.2	16.9	24.0	16.4	10.4
	v) 食物生産や栽培について	46.6	53.4	52.9	45.7	54.3	40.0	28.0	25.5	33.3
	w) 生活リズムとの関連	19.0	14.8	25.3	27.7	8.7	26.8	24.0	27.3	20.8
	x) 食を通じた地域の他世代との交流	67.2	60.2	62.1	60.6	78.3	63.4	64.0	54.5	50.0

40%以上の者が優先度が低いとした項目

表9 子どもを対象とした食教育において、優先度の低い働きかけの方法

(優先度の低いものから順に5肢迄を複数回答) %

働きかけの方法	保育園						幼稚園			
	0歳児 n=63	1歳児 n=96	2歳児 n=92	3歳児 n=101	4歳児 n=48	5歳児 n=75	3歳児 n=26	4歳児 n=57	5歳児 n=53	
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言	41.8	54.8	55.4	46.7	56.8	47.9	72.0	53.8	64.6
	b) 自分で摂取量を決定	20.0	25.0	27.7	18.9	20.5	23.9	36.0	32.7	31.3
	c) 調理への参加	41.8	52.4	47.0	52.2	63.6	42.3	48.0	40.4	41.7
	d) 配膳への参加	18.2	15.5	20.5	27.8	15.9	9.9	16.0	11.5	20.8
	e) 後片付けへの参加	9.1	14.3	9.6	13.3	0.0	11.3	4.0	3.8	4.2
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する	20.0	6.0	6.0	6.7	6.8	9.9	4.0	5.8	0.0
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる	10.9	4.8	3.6	10.0	4.5	9.9	20.0	30.8	33.3
	h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり	0.0	4.8	2.4	4.4	0.0	4.2	0.0	5.8	2.1
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重	20.0	11.9	13.3	13.3	6.8	15.5	0.0	5.8	8.3
	j) 食事の場を食教育に利用	25.5	21.4	18.1	23.3	18.2	25.4	4.0	15.4	10.4
食教育企画 への参加	k) 給食を通しての食教育	10.9	21.4	10.8	20.0	6.8	15.5	44.0	48.1	50.0
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる	38.2	50.0	47.0	40.0	45.5	35.2	44.0	32.7	43.8
	m) 食教育の企画に子どもを参加させる	38.2	46.4	50.6	48.9	56.8	46.5	60.0	48.1	33.3
	n) 外遊び等活動量との調整	3.6	2.4	3.6	6.7	0.0	4.2	0.0	9.6	4.2
生活の他 側面との 連携	o) 遊びと食教育の連携	16.4	20.2	20.5	16.7	15.9	14.1	12.0	21.2	18.8
	p) 知育と食教育の連携	40.0	40.5	37.3	34.4	34.1	39.4	40.0	38.5	25.0
	q) 家庭との連携を図る	3.6	3.6	4.8	8.9	6.8	18.3	4.0	7.7	14.6
家庭や 地域との 連携	r) 父親との関わりを増やす働きかけ	32.7	34.5	26.5	36.7	43.2	36.6	24.0	34.6	27.1
	s) 食を通じた地域の他世代との交流	70.9	54.8	60.2	58.9	68.2	54.9	52.0	53.8	41.7

40%以上の者が優先度が低いとした項目

表10 年代別 食教育への関心

年代	食教育への関心							年代による差
	n	多いにある		少しある		あまりない 又ははない		
		人数	%	人数	%	人数	%	
20代	188	70	37.2	113	60.1	5	2.7	
保 30代	110	64	58.2	44	40.0	2	1.8	
育 40代	124	85	68.5	36	29.0	3	2.4	***
園 50代以上	47	38	80.9	8	17.0	1	2.1	
計	501	270	53.9	219	43.7	11	2.2	
20代	77	13	16.9	45	58.4	19	23.4	
幼 30代	15	4	26.7	9	60.0	2	13.3	
稚 40代	26	9	34.6	16	61.5	1	3.8	***
園 50代以上	11	10	90.9	1	9.1	0	0.0	
計	135	38	28.1	75	55.6	22	16.3	

無回答者を除く

$\chi^2$ 検定 \*\*\* : <0.001

表11 職種別 食教育への関心

職種	食教育への関心							職種による差 <sup>1)</sup>
	n	多いにある		少しある		あまりない 又ははない		
		人数	%	人数	%	人数	%	
栄養士	21	16	76.2	4	19.0	1	4.8	
保母	453	231	51.0	209	46.1	13	2.9	
調理員	29	14	48.3	11	37.9	4	13.8	***
教諭	96	27	28.1	56	58.3	13	13.5	
その他	28	17	60.7	9	32.1	2	7.1	
計	606	308	50.8	294	48.5	34	5.6	

無回答者を除く

$\chi^2$ 検定 (その他を除く4職種×3群) \*\*\* : <0.001



表12 食教育への関心度別 自己の食態度

食 態 度		食教育への関心			関心度別 有意差
		多いに ある n=308	少しある n=294	あまりない 又ははない n=34	
健康を考えて食事をするようにしている	いつも	54.2 %	28.2 %	32.4 %	
	時々	41.8	62.2	52.9	***
	あまり又は全くしない	4.0	9.6	14.7	
食事内容への配慮 に関する態度	いつも	52.6	25.7	26.5	
	栄養のバランスがとれるようにしている 時々	41.8	61.0	61.8	***
	あまり又は全くしない	5.6	13.3	11.7	
いろいろな料理を組み合わせる ようにしている	いつも	60.9	37.8	27.3	
	時々	36.5	48.5	57.6	***
	あまり又は全くしない	2.6	13.7	15.1	
食事の簡便化に 関する態度	あまりない	23.7	16.0	11.7	
	食事簡単に済ませようとする ことは時々ある	67.9	68.6	64.7	**
	よくある	8.4	15.4	23.5	
食事の準備を簡単に済ませよう と、加工食品や調理済食品を使う ことは	あまりない	36.5	22.7	11.8	
	時々ある	57.0	64.6	85.3	***
	よくある	6.5	12.7	2.9	
食を楽しむ態度	いつも	59.0	51.4	41.2	
	食事の時間を楽しい時間にする ようにしている時々	34.4	37.9	44.1	
	あまり又は全くしない	6.6	10.7	14.7	
食事づくりが楽しみになる ことがある	よくある	31.0	19.9	24.2	
	時々ある	54.8	58.9	45.5	**
	あまり又は全くしない	14.2	21.2	30.3	
食を通した コミュニケーションや情報交換 に関する態度	いつも	55.7	46.5	32.4	
	家族そろって食事をするように している時々	34.0	34.7	32.4	***
	あまり又は全くしない	10.3	18.8	35.2	
食を通したコミュニケーションや 情報交換に関する態度	いつも	59.3	54.5	47.1	
	食を通して、コミュニケーションを とろうとする時々	36.7	38.4	44.1	
	あまり又は全くしない	4.0	7.1	8.8	
食や栄養に関する情報交換をする ようにしている	いつも	18.6	7.9	9.1	
	時々	58.3	56.5	42.4	***
	あまり又は全くしない	23.1	35.6	48.5	

χ<sup>2</sup>検定 \*\* : p<0.01, \*\*\* : p<0.001

表13 食教育への関心度別 食態度得点

食態度	全 体 n=686	食教育への関心		
		多いにある n=308	少しある n=294	あまりない 又ははない n=34
食事内容への配慮に関する態度点 (9点満点)	7.0 ± 1.6	7.6 ± 1.4	6.5 ± 1.6	6.4 ± 1.8
食事の簡便化に関する態度点 (6点満点)	2.3 ± 1.0	2.5 ± 1.0	2.1 ± 1.0	2.0 ± 0.8
食を楽しむ態度点 (6点満点)	4.5 ± 1.1	4.7 ± 1.0	4.4 ± 1.1	4.2 ± 1.3
食を通したコミュニケーションや 情報交換に関する態度点 (9点満点)	6.6 ± 1.6	6.9 ± 1.5	6.4 ± 1.7	5.6 ± 2.0
食態度得点 (30点満点)	20.4 ± 3.8	21.6 ± 3.5	19.4 ± 3.8	18.2 ± 3.9

平均点±標準偏差 t検定 \* : p<0.05, \*\*\* : p<0.001

表14-1 食教育への関心度別 重要性の認識に有意差のみられた課題 (保育園職員) <sup>1)</sup>

課題		20代 n=118	30代 n=110	40代 n=124	50代以上 n=47	全体 n=501
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連					**
	b) 疾病と食事との関連					**
	c) 虫歯と食事との関連				**	**
食べ方・ 食べる 内容	d) 噛むことと食事との関連		**			*
	e) 偏食、好き嫌い					
	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度					
	g) 授乳					**
	h) 離乳食					
	i) 必要な栄養素(栄養所要量)					*
	j) バランスの良い食事のとり方					**
	k) 間食のとり方					**
	l) 朝食を食べること				**	**
	m) 食事を楽しむこと		**		**	**
	食事時の マナーに 関して	n) 食事時のあいさつ				*
o) 食事前の手洗い					**	**
p) 食べる姿勢					**	**
q) 食具(箸、スプーン等)の使い方				*	**	**
家庭との 関わり	r) 家族や友だちとの共食		*		**	**
	s) 家庭での食事づくりの手伝い				*	**
	t) 家族や友人との食に関する情報交換				**	**
生活の 諸側面・ 地域との 関わり	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る			*	**	**
	v) 食物生産や栽培について				*	**
	w) 生活リズムとの関連				**	**
	x) 食を通じた地域の他世代との交流					**

表15-1 食教育への関心度別 重要性の認識に有意差のみられた働きかけの方法 (保育園職員) <sup>1)</sup>

働きかけの方法		20代 n=118	30代 n=110	40代 n=124	50代以上 n=47	全体 n=501
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言					
	b) 自分で摂取量を決定					
	c) 調理への参加					*
	d) 配膳への参加					
	e) 後片付けへの参加					
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する					
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる					
	h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり					*
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重					
食教育企画 への参加	j) 食事の場を食教育に利用		**	*		**
	k) 給食を通しての食教育	**	**	**		*
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる					**
生活の他 側面との 連携	m) 食教育の企画に子どもを参加させる					**
	n) 外遊び等活動量との調整			**		**
	o) 遊びと食教育の連携					*
家庭や 地域との 連携	p) 知育と食教育の連携					
	q) 家庭との連携を図る		**			**
	r) 父親との関わりを増やす働きかけ					
	s) 食を通じた地域の他世代との交流					

1) 無回答者を除く

表16-1 食教育への関心度別 実践状況に有意差のみられた課題

(保育園職員) 1)

課題		20代 n=118	30代 n=110	40代 n=124	50代以上 n=47	全体 n=501	
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連	**				**	
	b) 疾病と食事との関連	*			**	**	
	c) 虫歯と食事との関連	*				**	
食べ方・ 食べる 内容	d) 噛むことと食事との関連		**		**	**	
	e) 備食、好き嫌い	*					
	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度	**					
	g) 授乳						
	h) 離乳食					**	
	i) 必要な栄養素(栄養所要量)				*	**	
	j) バランスの良い食事のとり方					**	
	k) 間食のとり方					**	
	l) 朝食を食べること	*			*	**	
	m) 食事を楽しむこと		*				
	食事時の マナーに 関して	n) 食事時のあいさつ		**			
		o) 食事前の手洗い		**		*	**
		p) 食べる姿勢	**	**		*	
q) 食具(箸、スプーン等)の使い方		**				**	
家庭との 関わり	r) 家族や友だちとの共食		*		*		
	s) 家庭での食事づくりの手伝い			**		**	
	t) 家族や友人との食に関する情報交換			**		**	
生活の 諸側面・	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る			**		**	
	v) 食物生産や栽培について			*		**	
地域との 関わり	w) 生活リズムとの関連	*	*		**	**	
	x) 食を通じた地域の他世代との交流						

表17-1 食教育への関心度別 実践状況に有意差のみられた働きかけの方法

(保育園職員) 1)

働きかけの方法		20代 n=118	30代 n=110	40代 n=124	50代以上 n=47	全体 n=501
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言					
	b) 自分で摂取量を決定					
	c) 調理への参加					
	d) 配膳への参加					
	e) 後片付けへの参加					
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する					
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる					
	h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり		**		**	**
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重		*			
	j) 食事の場を食教育に利用			**		**
食教育企画 への参加	k) 給食を通しての食教育			**	*	**
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる					*
	m) 食教育の企画に子どもを参加させる			**		*
生活の他 側面との 連携	n) 外遊び等活動量との調整					**
	o) 遊びと食教育の連携			**		*
	p) 知育と食教育の連携			**		*
家庭や 地域との 連携	q) 家庭との連携を図る	*	**		**	**
	r) 父親との関わりを増やす働きかけ					*
	s) 食を通じた地域の他世代との交流					

1) 無回答者を除く

表18-1 食教育への関心度別セルフエフィカシーに有意差のみられた課題

(保育園職員) 1)

課題	20代 n=118	30代 n=110	40代 n=124	50代以上 n=47	全体 n=501
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連				*
	b) 疾病と食事との関連				**
	c) 虫歯と食事との関連			**	**
食べ方・ 食べる 内容	d) 噛むことと食事との関連	*		**	**
	e) 偏食、好き嫌い			**	**
	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度			**	**
	g) 授乳			*	
	h) 離乳食			**	*
	i) 必要な栄養素(栄養所要量)				**
	j) バランスの良い食事のとり方				**
	k) 間食のとり方				**
	l) 朝食を食べること				*
	m) 食事を楽しむこと				**
	食事時の マナーに 関して	n) 食事時のあいさつ			**
o) 食事前の手洗い			*	*	**
p) 食べる姿勢				**	**
q) 食具(箸、スプーン等)の使い方				**	**
家庭との 関わり	r) 家族や友だちとの共食				**
	s) 家庭での食事づくりの手伝い				**
	t) 家族や友人との食に関する情報交換				**
生活の 諸側面・ 地域との 関わり	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る			**	**
	v) 食物生産や栽培について	**			**
	w) 生活リズムとの関連			**	**
	x) 食を通じた地域の他世代との交流				

表19-1 食教育への関心度別セルフエフィカシーに有意差のみられた働きかけの方法

(保育園職員) 1)

働きかけの方法	20代 n=118	30代 n=110	40代 n=124	50代以上 n=47	全体 n=501
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言	*			*
	b) 自分で摂取量を決定	**			*
	c) 調理への参加				**
	d) 配膳への参加	**			*
	e) 後片付けへの参加	**			**
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する	*			**
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる				**
	h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり	*			**
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重				**
	j) 食事の場を食教育に利用		*		**
食教育企画 への参加 生活の他 側面との 連携 家庭や 地域との 連携	k) 給食を通しての食教育	*	**	*	**
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる				
	m) 食教育の企画に子どもを参加させる				
	n) 外遊び等活動量との調整			*	**
	o) 遊びと食教育の連携				
	p) 知育と食教育の連携				
	q) 家庭との連携を図る				**
	r) 父親との関わりを増やす働きかけ			*	*
	s) 食を通じた地域の他世代との交流				

1) 無回答者を除く

表14-2 食教育への関心度別 重要性の認識に、有意差のみられた課題  
(幼稚園職員)<sup>1)</sup>

課題		20代 n=77	30代 n=15	40代 n=26	50代以上 n=11	全体 n=135
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連				*	**
	b) 疾病と食事との関連					
	c) 虫歯と食事との関連					
	d) 噛むことと食事との関連					
食べ方・ 食べる 内容	e) 偏食、好き嫌い					**
	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度					**
	g) 授乳					**
	h) 離乳食					*
	i) 必要な栄養素(栄養所要量)					**
	j) バランスの良い食事のとり方					**
	k) 間食のとり方					
	l) 朝食を食べること					
	m) 食事を楽しむこと					
	食事時の マナーに 関して	n) 食事時のあいさつ				*
o) 食事前の手洗い						
p) 食べる姿勢						
q) 食具(箸、スプーン等)の使い方						
家庭との 関わり	r) 家族や友だちとの共食					
	s) 家庭での食事づくりの手伝い					**
	t) 家族や友人との食に関する情報交換					**
生活の 諸側面・ 地域との 関わり	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る					**
	v) 食物生産や栽培について					
	w) 生活リズムとの関連					
	x) 食を通じた地域の他世代との交流					

表15-2 食教育への関心度別 重要性の認識に有意差のみられた働きかけの方法  
(幼稚園職員)<sup>1)</sup>

働きかけの方法		20代 n=77	30代 n=15	40代 n=26	50代以上 n=11	全体 n=135
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言					
	b) 自分で摂取量を決定				*	
	c) 調理への参加					
	d) 配膳への参加					
	e) 後片付けへの参加					
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する	**				*
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる	**				*
	h) 食事の場の美しい雰囲気づくり					
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重					*
	j) 食事の場を食教育に利用					*
食教育企画 への参加	k) 給食を通しての食教育					
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる					*
	m) 食教育の企画に子どもを参加させる	*				
生活の他 側面との 連携	n) 外遊び等活動量との調整	*				*
	o) 遊びと食教育の連携	*				*
	p) 知育と食教育の連携					
家庭や 地域との 連携	q) 家庭との連携を図る					
	r) 父親との関わりを増やす働きかけ	*				*
	s) 食を通じた地域の他世代との交流					*

1) 無回答者を除く

表16-2 食教育への関心度別 実践状況に有意差のみられた課題

		(幼稚園職員) 1)					
課題		20代 n=77	30代 n=15	40代 n=26	50代以上 n=11	全体 n=135	
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連					**	
	b) 疾病と食事との関連						
	c) 虫歯と食事との関連		**				
	d) 噛むことと食事との関連					*	
	e) 偏食、好き嫌い						
食べ方・ 食べる 内容	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度						
	g) 授乳						
	h) 離乳食			*			
	i) 必要な栄養素(栄養所要量)						
	j) バランスの良い食事のとり方						
	k) 間食のとり方						
	l) 朝食を食べること						
	m) 食事を楽しむこと						
	食事時の マナーに 関して	n) 食事時のあいさつ					
		o) 食事前の手洗い					
p) 食べる姿勢							
q) 食具(箸、スプーン等)の使い方							
家庭との 関わり	r) 家族や友だちとの共食						
	s) 家庭での食事づくりの手伝い						
	t) 家族や友人との食に関する情報交換					*	
生活の 諸側面・ 地域との 関わり	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る						
	v) 食物生産や栽培について						
	w) 生活リズムとの関連						
	x) 食を通じた地域の他世代との交流						

表17-2 食教育への関心度別 実践状況に有意差のみられた働きかけの方法

		(幼稚園職員) 1)				
働きかけの方法		20代 n=77	30代 n=15	40代 n=26	50代以上 n=11	全体 n=135
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言					
	b) 自分で摂取量を決定					
	c) 調理への参加					
	d) 配膳への参加					
	e) 後片付けへの参加					
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する					
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる					
	h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり					
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重					
	j) 食事の場を食教育に利用	**				**
食教育企画 への参加	k) 給食を通しての食教育	**				
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる					
	m) 食教育の企画に子どもを参加させる					*
	生活の他 側面との 連携 家庭や 地域との 連携	n) 外遊び等活動量との調整				
o) 遊びと食教育の連携						
p) 知育と食教育の連携						
q) 家庭との連携を図る						
r) 父親との関わりを増やす働きかけ						
s) 食を通じた地域の他世代との交流						

1) 無回答者を除く

表18-2 食教育への関心度別セルフエフィカシーに有意差のみられた課題  
(幼稚園職員)<sup>1)</sup>

課題	20代 n=77	30代 n=15	40代 n=26	50代以上 n=11	全体 n=135
健康との 関わり	a) からだの発育と食事との関連			*	
	b) 疾病と食事との関連			*	
	c) 虫歯と食事との関連				
	d) 噛むことと食事との関連				
食べ方・ 食べる 内容	e) 偏食、好き嫌い				
	f) むら食い、遊び食べ、食べる速度				
	g) 授乳				
	h) 離乳食				**
	i) 必要な栄養素(栄養所要量)				**
	j) バランスの良い食事のとり方	*			
	k) 間食のとり方				
	l) 朝食を食べること				
食事時の マナーに 関して	m) 食事を楽しむこと				
	n) 食事時のあいさつ				
	o) 食事前の手洗い				
	p) 食べる姿勢				
家庭との 関わり	q) 食具(箸、スプーン等)の使い方				
	r) 家族や友だちとの共食				*
	s) 家庭での食事づくりの手伝い	*			*
生活の 諸側面・ 地域との 関わり	t) 家族や友人との食に関する情報交換				
	u) 食を通して季節感や伝統行事を知る				
	v) 食物生産や栽培について				
	w) 生活リズムとの関連				
	x) 食を通じた地域の他世代との交流				

表19-2 食教育への関心度別セルフエフィカシーに有意差のみられた働きかけの方法  
(幼稚園職員)<sup>1)</sup>

働きかけの方法	20代 n=77	30代 n=15	40代 n=26	50代以上 n=11	全体 n=135
食事づくり への参加	a) 献立内容への発言				
	b) 自分で摂取量を決定				
	c) 調理への参加				
	d) 配膳への参加				
	e) 後片付けへの参加				
食事の場 での 働きかけ	f) 保育者が子どもと共食する				
	g) 保育者と子どもが同じものを食べる				
	h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり				
	i) 食事の場で子ども同士の会話の尊重				
食教育企画 への参加	j) 食事の場を食教育に利用	**			**
	k) 給食を通しての食教育	**			**
	l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる	*			*
	m) 食教育の企画に子どもを参加させる				*
生活の他 側面との 連携	n) 外遊び等活動量との調整				
	o) 遊びと食教育の連携				
家庭や 地域との 連携	p) 知育と食教育の連携		*		
	q) 家庭との連携を図る				
	r) 父親との関わりを増やす働きかけ				
	s) 食を通じた地域の他世代との交流				

1) 無回答者を除く

地域：	
園名：	ID No.

平成9年度厚生省心身障害者研究課題「子どもの健康と栄養に関する研究」  
乳幼児の食教育に関する二次調査

このたびは、本調査にご協力賜わり、ありがとうございます

本調査という「食教育」とは、食事の内容やマナーだけではなく、生産のかかわり、家族や地域のかかわり等、広い課題を扱うものを意味します

現在、あなたが主に担当する年齢の子どもの対象として考えて、1頁から順に質問にお答えください。

\*あなたが主に担当する子どもの年齢は何歳ですか ( ) 歳

園全体或いは複数の年齢層をご担当なさっているお立場の方は、現在あなたが最も注目している年齢の子どもの対象として考えて、お答えください

\*あなたが注目する子どもの年齢は何歳ですか ( ) 歳

調査に関する問い合わせ先：

研究協力者：武見ゆかり (女子栄養大学)  
主任研究者：足立 己幸 (女子栄養大学)  
Tel&Fax 0492-82-3721

問1 あなたは、子どもたちを直接の対象として食教育をすることに関心がありますか  
あてはまる番号に○をしてください

1. 多に関心がある      2. 少し関心がある      3. あまり関心がない      4. ほとんど関心がない

問2 子どもを直接の対象とした食教育において、次のような課題をとりあげること、重要だと思えますか。a)からx)までそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください

- |                           |          |         |             |
|---------------------------|----------|---------|-------------|
| a) 肥満、やせ等、からだの発育と食事との関連   | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| b) 小児生活習慣病等、病気と食事との関連     | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| c) 虫歯と食事との関連              | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| d) 嘔吐ことと食事との関連            | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| e) 偏食、好き嫌い                | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| f) むら食い、遊び食べ、食べる速度        | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| g) 授乳                     | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| h) 離乳食                    | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| i) 必要な栄養素 (栄養所要量)         | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| j) バランスの良い食事のとり方          | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| k) 間食のとり方                 | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| l) 朝食を食べること               | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| m) 食事時のあいさつ               | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| n) 食事前の手洗い                | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| o) 食べる姿勢                  | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| p) 食具 (箸、スプーン等) の使い方      | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| q) 食を通して季節感や伝統行事を知ること     | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| r) 食事を楽しむこと               | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| s) 家族や友だちとの共食             | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| t) 家庭での食事づくりの手伝い          | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| u) 家族や友だちと食物を食べることの話をすること | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| v) 食物生産や栽培について            | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| w) 生活リズムとの関連              | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |
| x) 食を通じた地域の他世代との交流        | 1. とても重要 | 2. 少し重要 | 3. あまり重要でない |

\* この他、あなたが重要と思うことがありましたら具体的に内容をください



問3 子どもを直接の対象とした食教育において、次のような働きかけをすることは重要だと思いますか。a)からs)までそれぞれについて、あてはまる欄に○をつけてください

- a) 子どもに敵立の内容に意見を言わせる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- b) 子どもに自分で食べる量を決めさせる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- c) 子どもを調理に関わらせる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- d) 子どもを配膳に関わらせる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- e) 子どもを後片付けに関わらせる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- f) 保育者が子どもと一緒に食べる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- g) 保育者が子どもと同じものを食べる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- i) 食事の場で子ども同士の会話を奨励する 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- j) 食事の場を食教育に利用する 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- k) 給食を通して食教育を行う 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- m) 食教育の企画に子どもを参加させる 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- n) 遊びの中に食教育を取り込む 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- o) 遊びの中で外遊びを促進にするなど、活動量を増やすように働きかける 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- p) 知育(字や数の学習等)の中に食教育を取り込む 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- q) 家庭との連携を図る 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- r) 母親だけでなく、父親との関わりを増やすように働きかける 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない
- s) 食を通して地域の他世代との交流を図る 1. とても重要 2. 少し重要 3. あまり重要でない

\* この他、あなたが重要と思うことがありましたら具体的にお書きください

問4 次のうち、子どもへの働きかけの中で、あなたが実際にとりあげていることがありますか a)からx)までそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください

- a) 肥満、やせ等、からだの発育と食事との関連 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- b) 小児生活習慣病等、病気と食事との関連 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- c) 虫歯と食事との関連 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- d) 噛むことと食事との関連 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- e) 偏食、好き嫌い 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- f) むら食い、遊び食べ、食べる速度 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- g) 授乳 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- h) 離乳食 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- i) 必要な栄養素(栄養所要量) 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- j) パラソンの良い食事のとり方 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- k) 間食のとり方 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- l) 期食を食べること 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- m) 食事時のあいさつ 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- n) 食事前の手洗い 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- o) 食べる姿勢 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- p) 食具(箸、スプーン等)の使い方 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- q) 食を通して季節感や伝統行事を知ること 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- r) 食事を楽しむこと 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- s) 家族やあなたとの共食 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- t) 家庭での食事づくりの手伝い 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- u) 家族やあなたと食物や食べることを話をする 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- v) 食物生産や栽培について 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- w) 生活リズムとの関連 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない
- x) 食を通して地域の他世代との交流 1. 積極的にやっている 2. 少しやっている 3. ほとんどやっていない

\* この他、あなたが実際にやっていることがありましたら具体的にお書きください

問5 次のうち、子どもを対象に、あなたが実際にやっていることがありますか。

- a) 1から5)までそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください
- a) 子どもに献立の内容に意見を言わせる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - b) 子どもに自分で食べる量を決めさせる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - c) 子どもを調理に関わらせる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - d) 子どもを配膳に関わらせる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - e) 子どもを後片付けに関わらせる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - f) 保育者が子どもと一緒に食べる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - g) 保育者が子どもと同じものを食べる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - i) 食事の場で子ども同士の会話を尊重する 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - j) 食事の場を食教育に利用する 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - k) 給食を通して食教育を行う 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - m) 食教育の企画に子どもを参加させる 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - n) 遊びの中に食教育を取り込む 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - o) 保育の中で外遊びを活発にするなど、活動量を増やすように働きかける 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - p) 知育(字や数の学習等)の中に食教育をとり込む、或いは食教育と知育を関連づける 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - q) 家庭との連携を図る 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - r) 母親だけでなく、父親との関わりを増やすように働きかける 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない
  - s) 食を通して地域の他世代との交流を図る 1.頻りにやっている 2.少しやっている 3.ほとんどやっていない

\* この他、あなたが実際にやっていることがありましたら具体的に書きください

問6 あなたは今後、子どもを直接の対象として、次のような課題で食教育を行うことができると思いますか。a)からx)までそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください

- a) 肥満、やせ等、からだの発育と食事との関連 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- b) 小児生活習慣病等、病気と食事との関連 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- c) 虫歯と食事との関連 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- d) 噛むことと食事との関連 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- e) 偏食、好き嫌い 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- f) むら食い、遊び食べ、食べる速度 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- g) 授乳 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- h) 離乳食 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- i) 必要な栄養素(栄養所要量) 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- j) バランスの良い食事のとり方 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- k) 間食のとり方 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- l) 朝食を食べること 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- m) 食事時のあいさつ 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- n) 食事前の手洗い 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- o) 食べる姿勢 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- p) 食具(箸、スプーン等)の使い方 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- q) 食を通して季節感や伝統行事を知ること 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- r) 食事を楽しむこと 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- s) 家族や友だちとの共食 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- t) 家庭での食事づくりの手伝い 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- u) 家族や友だちと食物や食べることを話すること 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- v) 食物生産や栽培について 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- w) 生活リズムとの関連 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う
- x) 食を通して地域の他世代との交流 1.かなりできると思う 2.少しはできると思う 3.できないと思う

\* この他、あなたが実際にやっていることがありましたら具体的に書きください

問7 あなたは今後、子どもを直接の対象とした食教育において、次のような働きかけができると思いますか。a)からs)までそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください

- |   |             |             |           |
|---|-------------|-------------|-----------|
| a) 子どもに献立の内容に意見を言わせる                      | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| b) 子どもに自分で食べる量を決めさせる                      | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| c) 子どもを調理に関わらせる                           | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| d) 子どもを配膳に関わらせる                           | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| e) 子どもを後片付けに関わらせる                         | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| f) 保育者が子どもと一緒に食べる                         | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| g) 保育者が子どもと同じものを食べる                       | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| h) 食事の場の楽しい雰囲気づくり                         | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| i) 食事の場で子ども同士の会話を尊重する                     | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| j) 食事の場を食教育に利用する                          | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| k) 給食を通して食教育を行う                           | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる                   | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| m) 食教育の企画に子どもを参加させる                       | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| n) 遊びの中に食教育を取り込む                          | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| o) 保育の中で外遊びを活発にするなど、活動量を増やすように働きかける       | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| p) 知育（字や数の学習等）の中に食教育を取り込む、或いは食教育と知育を関連づける | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| q) 家庭との連携を図る                              | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| r) 母親だけでなく、父親との関わりを増やすように働きかける            | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |
| s) 食を通して地域の他世代との交流を図る                     | 1.かなりできると思う | 2.少しはできると思う | 3.できないと思う |

\* この他、あなたが実際にやっていることがありましたら具体的にお書きください

問8 食生活や食事についてのあなたの考え方の形成に影響した情報源はどれですか。影響したものの全てに○をつけ、その中で最も影響の大きかったもの1つに◎をつけてください

- |                     |                 |            |         |             |
|---------------------|-----------------|------------|---------|-------------|
| 1. テレビ              | 2. ラジオ          | 3. 新聞      | 4. 一般雑誌 | 5. 学術雑誌・専門誌 |
| 6. 学生時代の勉強          | 7. 同僚等との勉強会・研究会 | 8. 行政からの情報 | 9. 医師   | 10. 看護婦     |
| 11. 保健婦             | 12. 保母          | 13. 栄養士    | 14. 友人  | 15. 家族      |
| 16. その他（具体的に書きください） |                 |            |         |             |

問9 現在、食教育を行う上で役立っている情報源はどれですか。役立っているものすべてに○をつけ、その中で最も役に立っているもの1つに◎をつけてください

- |                     |                 |            |         |             |
|---------------------|-----------------|------------|---------|-------------|
| 1. テレビ              | 2. ラジオ          | 3. 新聞      | 4. 一般雑誌 | 5. 学術雑誌・専門誌 |
| 6. 学生時代の勉強          | 7. 同僚等との勉強会・研究会 | 8. 行政からの情報 | 9. 医師   | 10. 看護婦     |
| 11. 保健婦             | 12. 保母          | 13. 栄養士    | 14. 友人  | 15. 家族      |
| 16. その他（具体的に書きください） |                 |            |         |             |

問10 今後、食教育に関する情報源として、もっと活用したいと思うものはどれですか。活用したいものすべてに○をつけ、その中で最も活用したいもの1つに◎をつけてください

- |                     |                 |            |         |             |
|---------------------|-----------------|------------|---------|-------------|
| 1. テレビ              | 2. ラジオ          | 3. 新聞      | 4. 一般雑誌 | 5. 学術雑誌・専門誌 |
| 6. 学生時代の勉強          | 7. 同僚等との勉強会・研究会 | 8. 行政からの情報 | 9. 医師   | 10. 看護婦     |
| 11. 保健婦             | 12. 保母          | 13. 栄養士    | 14. 友人  | 15. 家族      |
| 16. その他（具体的に書きください） |                 |            |         |             |

問11 食教育に関して、困っていること、悩んでいること、知りたいことなどがあれば、具体的に書きください

問12 あなたご自身のことについてうかがいます

あてはまるものに○をつける、または（ ）内に具体的に書きください

- |  |           |             |            |
|--|-----------|-------------|------------|
| 1) 性別： 男性 ・ 女性                         | 2) 年齢： 歳  |             |            |
| 3) 職種： 保母 看護婦 栄養士 調理員 その他（ ）           |           |             |            |
| 4) 3) の職種での勤務年数： 約 年                   |           |             |            |
| 5) 役職： （ ）                             |           |             |            |
| 6) あなた自身の食生活について、それぞれ、あてはまる番号に○をしてください |           |             |            |
| ア) 健康のことを考えて食事をするようにしていますか             |           |             |            |
| 1. いつもしている                             | 2. 時々している | 3. あまりしていない | 4. 全くしていない |
| イ) 栄養のバランスがとれるようにしていますか                |           |             |            |
| 1. いつもしている                             | 2. 時々している | 3. あまりしていない | 4. 全くしていない |
| ウ) いろいろな料理を組み合わせて食べるようにしていますか          |           |             |            |
| 1. いつもしている                             | 2. 時々している | 3. あまりしていない | 4. 全くしていない |

- 工) 食事を簡単に済ませるようとする場合がありますか  
 1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- 才) 食事の準備を簡単に済ませようと、加工食品や調理済食品を使う場合がありますか  
 1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- カ) 食事の時間を楽しい時間にするようにしていますか  
 1. いつもしている 2. 時々している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
- キ) なるべく家族そろって食事をするようにしていますか  
 1. いつもしている 2. 時々している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
- ク) 食事がくつりが楽しみになることがありますか  
 1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- ケ) 食事を通して、家族や友人とのコミュニケーションをとろうとすることがありますか  
 1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- コ) 家族や友人と食や栄養に関する情報交換をするようにしていますか  
 1. いつもしている 2. 時々している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
- 問13 最後にもう一度おさしします。次のうち、あなたが子どもへの食教育の課題として、最も重要で優先順位が高いと思うものを5つに○、重要とは思いますが、勤務状況等の諸条件の中で優先順位は低くても仕方ないと思うものを5つに×を、( ) 内につけてください
- a) 肥満、やせ等、からだの弱弱と食事との関連 ( )  
 b) 小児生活習慣病等、病弱と食事との関連 ( )  
 c) 虫歯と食事との関連 ( )  
 d) 嘔吐ことと食事との関連 ( )  
 e) 偏食、好き嫌い ( )  
 f) むら食い、遊び食べ、食べる速度 ( )  
 g) 授乳 ( )  
 h) 離乳食 ( )  
 i) 必要な栄養素 (栄養所要量) ( )  
 j) バランスの良い食事のとりの方 ( )  
 k) 間食のとりの方 ( )  
 l) 朝食を食べること ( )  
 m) 食事時のあいさつ ( )  
 n) 食事前の手洗い ( )  
 o) 食べる姿勢 ( )  
 p) 食具 (箸、スプーン等) の使い方 ( )  
 q) 食を通して季節感や伝統行事を知ること ( )  
 r) 食事を楽しむこと ( )  
 s) 家族や友だちとの共食 ( )  
 t) 家庭での食事づくりの手伝い ( )  
 u) 家族や友だちと食物や食べることをすること ( )  
 v) 食物生産や栽培について ( )  
 w) 生活リズムとの関連 ( )  
 x) 食を通じた地域の他世代との交流 ( )

- 問14 子どもを直接の対象とした食教育で、あなたが最も重要で優先順位が高いと思う働きかけ5つに○を、重要とは思いますが、勤務状況等の諸条件の中で、優先順位は低くても仕方ないと思うものを5つに×を、( ) にお書きください
- a) 子どもに献立の内容に意見を言わせる ( )  
 b) 子どもに自分で食べる量を決めさせる ( )  
 c) 子どもを調理に関わらせる ( )  
 d) 子どもを配膳に関わらせる ( )  
 e) 子どもを後片付けに関わらせる ( )  
 f) 保育者が子どもと一緒に食べる ( )  
 g) 保育者が子どもと同じものを食べる ( )  
 h) 食事の場を楽しい雰囲気づくり ( )  
 i) 食事の場で子ども同士の話話を尊重する ( )  
 j) 食事の場を食教育に利用する ( )  
 k) 給食を通して食教育を行う ( )  
 l) 子どもに自分の食生活の問題点を考えさせる ( )  
 m) 食教育の企画に子どもを参加させる ( )  
 n) 遊びの中に食教育を取り込む ( )  
 o) 保育の中で外遊びを活動にするなど、活動量を増やすように働きかける ( )  
 p) 知育 (字や数の学習等) の中に食教育を取り込む、或いは食教育と知育を関連づける ( )  
 q) 家庭との連携を図る ( )  
 r) 母親だけでなく、父親との関わりを増やすように働きかける ( )  
 s) 食を通して地域の他世代との交流を図る ( )
- 問15 あなたはどのような子どもにも食教育が必要と考えますか。次の各側面からお答えください
- ・健康状態の面から
- ・食行動に関連することから
- ・ライフスタイルの面から
- 問16 あなたが考える「食教育」とは、どんなものですか。自由にお書きください



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 【要約】

保育園,幼稚園の職員等,食教育において働きかける側の子どもを直接の対象とする食教育に関するニーズを,重要性の認識やセルフ・エフィカシー等の態度の面から,実践状況との関連で検討することを目的に,全国7地域の保育園,幼稚園計52園に勤務する職員を対象に郵送法による質問紙調査を実施し,672名から有効回答が得られた(有効回答率87.8%).調査内容として,食教育の課題24項目,働きかけの方法19項目をとりあげ,重要性の認識,実践状況・実践へのセルフ・エフィカシーを3段階のリカート法で回答させた.事前,事後に関係者によるフォーカス・グループを実施し,調査項目の選定と,調査結果をふまえて今後の食教育の方向性に関する質的検討を行った.

結果は,1)保育園,幼稚園共に重要性の認識で「とても重要」と積極的な回答をした者が60%を超えた課題は,健康との関わり,食べ方・食べる内容,食事のマナー,家庭との関わり,生活・地域との関わり等の各側面で見られたが,セルフ・エフィカシーと実践状況で積極的な回答者率が60%を超えた項目は,食事のマナーに関する項目と食べ方の中の「食事を楽しむこと」,家庭との関わりの中の「家族や友達との共食」だけであった.2)子どもへの食教育に関心の高い者は,低い者に比べ,重要性の認識,セルフ・エフィカシー,実践状況の各面で積極的な回答者率が有意に低かった.また,食教育への関心が高い者は,自己の食生活への態度においても積極的な者が多かった.3)事後のフォーカス・グループの結果,子ども主体の,参加型の食教育等,幼児の食教育を新しい方向へ展開するための具体的な情報や研修のニーズが高いことが示された.